

農業研究センター

ターゲット4

農業研究センターの建設

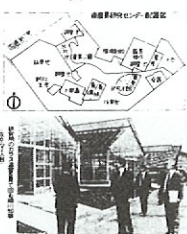
『農家にも施設開放』という見出しで報道された、農業研究センターの完成。昨年四月五日熊本日日新聞に掲載されました。開かれた研究機関をめざす同センター。隣接地には農業を遊びながら学べる農業公園も建設中です。

先端技術が早く農家でも利用できるようになって欲しい。それに、今度建設される農業公園で、消費者と相互理解ができるのではないかと期待しています。

ど、農家の方が直接相談にこられる施設もあります。平成二年度には農業公園も完成し、県民の皆さんに農業理解を促す場、農業技術開発の拠点という二つの面が、より充実してくると思います。

●畜産農家 中尾 雄二さん
「農業研究センターでは、米づくり、園芸、畜産など総合的に農業の研究がされていますよ。あらゆる種類の農家にとって、非常に便利な機関だと思います。農産物の輸入自由化に対抗するためにも、センターが研究している

●熊本県農政課 金田 洋さん
「今まで、農業試験場、畜産試験場などとバラバラだった組織を効率化などのためにも統合した方がいいということで農業研究センターが建てられました。主に、熊本独自の農産物、例えば肥後米の品質確立、全国トップレベルの牛の人工受精などの研究が行われています。農事相談室、開放実験室な



ターゲット5

芸術文化活動の推進



細川護立コレクション横山大観「焚火」

『大観、春草の名画も収蔵』。これは、昨年十一月八日、熊本日日新聞が、細

川護立コレクションの県立美術館収蔵を報じたもの。一昨年には、肉筆浮世絵の今西コレクションも寄贈されています。今回、世界でも有数の逸品が収められたことにより、熊本の芸術文化は大きく向上しようとしています。

●熊本社会役員 川瀬 洋通さん

「県立美術館の充実など、文化も地方分散を始めて欲しいです。だから、コレクションを持つて美術館や博物館を核として、県内各地に、それぞれ地域の特性を生かしたミニ・ミュージアムを作っていけばいいと思います。

県全体がアートの中に身を置く熊本なんていいと思いますよ。



●県立美術館 坂田 燦さん

「これだけのコレクションが、地方の一美術館にまとまってきたということ

だと思えますが、どういう理由でこの日が設けられたのでしょうか。

●熊本県婦人対策室 村松 緑さん

「今までは、婦人対策室の設置や各県事務所に婦人行政窓口を置くなど、体制づくりの面、また、女性の社会参加についての皆さんの理解も深まりつつあるなど、成果が得られています。これからは、今までの成果を踏まえて、働く女性の子育ての問題など具体的な問題の解決に取り組んでいきたいと考えています。そのためには、県民の方々の参加による婦人行政、しかも、それぞれの市町村でも積極的に取り組んで

ターゲット6

婦人の社会参加の促進

三月十日が『くまもと女性の日』に制定されました。昨年九月二十日付けの朝日新聞で報じられたこのニュース。女性の社会参加は、二十一世紀の重要な課題の一つではないでしょうか。

●熊本市内百貨店人事担当

大場 三鈴さん

「女性が社会で活躍する上で重要なことは、女性自身の意識のちがう方だと思っんです。女性の社会に対する意識が低いと、社会の女性に対する意識も低くなるような気がします。くまもと女性の日」が設けられたのはいいこと



「くまもと女性の日」実行委員会

「くまもと女性の日」

県が制定 実行委員ら募集
「くまもと女性の日」は、県民の皆さんが自身のこととして女性の社会参加を考えるためのもので、多くの方のご参加をお願いしたいです。

いたくことが大変大切になります。三月のくまもと女性の日の制定は県民の皆さんが自身のこととして女性の社会参加を考えるためのもので、多くの方のご参加をお願いしたいです。

「○○のターゲット」の中から、こく一部を取りあげましたが、このほかのターゲットについても、熊本は確かな歩みを続けています。この一年、また新たに県政を進め、明日の熊本をつくっていくのは、他ならぬ、私たち自身であることを認識したいものです。